

## 令和6年度 慈光松尾こども園施設関係者評価結果

当園は、令和6年4月幼保連携型認定こども園に移行し一年が経ちました。皆様のご協力とご支援をいただきながら、年度末を迎えることができました。改めて皆様に心より御礼申し上げます。

12月、「施設関係者評価」「職員自己評価」を行い、3月施設関係者評価委員会の評価結果を当園のICTシステムにて全保護者に公開、またホームページにて第三者にも公開致します。保護者アンケートは、171家庭中、123家庭からの回答があり、職員の回答は40名でした。各々の項目について円グラフを用いて結果を解りやすく可視化しました。

初年度の施設関係者評価委員は、主任児童委員2名と保育活動協力者1名、保護者会より正副会長3名を選定、皆様からご意見をいただき、園職員の中からは園長、副園長、事務長が加わりました。

### I 教育及び保育の理念

仏教精神を根底に置き、子どもが現在を最もよく生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うために、かけがえのない一人一人の子どもを慈しみ、その主体性を尊重して、「いのちを大切にできる心・感謝する心」を育む。

### II 教育及び保育の目標

1. 健康、安全で幸福な生活のために必要な基本的な習慣を養い、身体諸機能の調和的発達を図ること。
2. 集団生活を通じて、喜んでこれに参加する態度を養うとともに家族や身近な人への信頼感を深め、自主、自律及び協同の精神並びに規範意識の芽生えを養うこと。
3. 身近な社会生活、生命及び自然に対する興味を養い、それらに対する正しい理解と態度及び思考力の芽生えを養うこと。
4. 日常の会話や、絵本、童話等に親しむことを通じて、言葉の使い方を正しく導くとともに、相手の話を理解しようとする態度を養うこと。
5. 音楽、身体による表現、造形等に親しむことを通じて、豊かな感性と表現力の芽生えを養うこと。
6. 環境の実現及び子どもと保育教諭その他の職員との信頼関係の構築を通じて、心身の健康の確保及び増進を図ること。

### III 重点目標

1. 乳幼児期にふさわしい生活の中で、子どもが自ら環境に働きかけてその子なりに試行錯誤を繰り返しながら、自ら発達に必要な体験を重ねていくことを大切にする。
2. 屋外活動を充実させ、園内の自然環境や地域の自然を日々の保育に積極的に取り入れていく。
3. 保護者と保育者等が互いに連携・協働し、子育てのパートナーとなり、子どもの育ちを支える。

#### IV 項目の達成及び考察・課題

※評価基準 A：達成されている

B：おおむね達成されている

C：取り組まれているが成果が十分でない D：取り組みが感じられない

分野	項目	評価	実態・考察・課題
園 管 理	教育・保育目標の周知	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「1. 園の教育方針がわかりやすく説明されている」(95.2%)、「あまり思わない」(4.8%)と答えた保護者もあり、説明内容のわかりにくさがあることが窺える。</li> <li>・周知方法として教育・保育の理念や方針内容については、説明会や園長講話という形で、全園児の保護者に発信する場を設けている[参観日・親子の日・入所説明会など]が、会の持ち方やその時期・内容等を検討工夫する必要がある。</li> <li>・来年度から本格始動する「自然保育」については、保護者は園の方針に同意があり、「19.自然保育に取り組む園の方針に共感する」(99.2%)となった。記述欄の中にも「散歩や土遊び等、自然にふれあう機会が増える」とあり、保護者の多くが乳幼児期には積極的に自然環境の中での保育を望んでいることが分かった。</li> </ul>
	危機管理体制の整備	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・遊具の安全対策については96.7%、地震・火災への避難訓練を含む備えについて99.2%、保育中のけがや発熱に対する園の対応についても94.3%とおおむね園の危機管理体制に安心感をもって頂いている。</li> <li>・園でのけがについては、日本スポーツ振興センター(JSC)災害給付制度、総合賠償保険を利用し、治療費の対応を行っている。また、職員会や朝礼の中、ヒヤリハット等を利用したり事故分析をし、マニュアルを見直しながら対応にあたっている。</li> <li>・職員は、毎月の避難訓練に加え、事故が起こりそうな状況や起こってしまった時の対応を部署が違ってもそれぞれにしっかりと取り組み、外部講師による研修や園内研修を行いながらスキルを上げている。</li> <li>・保護者アンケート「4. 外部からの不審者の侵入に対して、安全対策を十分行っている」に対し、C・D 合わせると9.8%と一割弱の保護者が何かしら不安を抱いている。門や玄関は電子錠を使い、外部の人にはインターフォンを利用してもらうようになっているものの、登降園時の人の出入りが多い時には、門扉が開放されていることもあり、引き続きセキュリティ対策に力を入れていきたい。</li> </ul>
	家庭・地域・関係機関への情報発信	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭との連携はコドモアプリを使うことで連絡帳機能をタイムリーに利用することができる。細かな課題を改善し、良いコミュニケーションツールにしていきたい。各クラス通信等は写真を多用しながら、保育内容を保護者にわかりやすく発信できた。加えて短時間で作成でき、職員の業務改善にもつながった。</li> </ul>
	子育て支援	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「7. 保護者との連携(89.4%)」、その他子育て支援に関する「8. 子どもの心身の健康の相談」「9. 悩み相談」「保育参観保育体験は有意義」については、9割以上の保護者が職員の対応について満足していると回答した。職員の自己評価においても、「保護者から信頼され、子育ての相談に応じている(90%)」、「地域の子育て相談に応じる体制がある(87.5%)」と職員の回答率の高さと保護者の満足度はリンクしている。※保育教諭や養護教諭・栄養士以外の職員は、保護者との直接的なかわりが少ないために相談に応じることは稀である。そのため、Dの回答もあると思われる。</li> </ul>
教育・保育活動	理解 教育課程・指導計画の共通	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園行事を保護者参加や参観の機会を増やしてほしいという要望が、10.6%と他の項目と比較する中で多く、記述欄の中においても園での我が子の様子を少しでも見たいという保護者の気持ちが挙がっていた。</li> <li>・「個々を大切に保育はありがたいが、みんなで何か一つのことに向かって力を合わせて活動する事や発表会といった行事が少ない」という具体的な意見もあった。</li> </ul>
	発達段階に即した適切な子どもも理解・援助	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「22. 障がいのある子ども等の特別支援教育について、保護者説明会や園長講話等で説明があった」の項目では、保護者の受け取り方が様々であり、59.3%は説明を受けたと思い、40.7%は受けていないと思っている。園則・運営規程の中には表記されているものの、乳幼児期に障害児の診断を受けていることは大変まれであることから「障がい児教育」「特別支援教育」については、曖昧な印象になっていなかったか反省・課題となった。</li> <li>・「23. 職員は協力し合って保育にあたり、不適切な保育はないと思う」の項目は95.9%という回答率であった。この数字は職員に対する信頼感の表れかと思うが、一方で4.1%の保護者が、不適切な保育について懸念を持っている(C・D)ことが分かった。</li> </ul>
職員の資質向上 (職員自己評価より)	小学校との円滑な連携	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小学校との連携が重要であることは理解しているが、教育内容について知らないことが多い」「年長担任にならないと学校との引継ぎの内容等、わからないことが多い」という経験に関わらず職員の個々の声を園の課題にしながら、研修を進めていきたい。また小学校までを見据えた保育(幼児期の育ちがどのように小学校生活へと繋がっていくのか)を学んでいきたい。</li> <li>・「架け橋期のカリキュラム」の研修は進めているが、地域学校との共同研修はまだ行われておらず、園児にふさわしい具体的なカリキュラムを作成するにはもう少しばかり時間がかかりそうだ。令和7年4月から始まる飯田学園構想の中で、9年間の小中一貫教育前の幼児教育からの学びの系統性と連続性を明確にし、地域の中での異年齢集団としての繋がりを大事にしていきたい。</li> <li>・園長は、松尾小学校学校運営協議会(コミュニテースクール)に所属し、隣接する認定こども園園長として、地域の方や保護者と連携し学校運営に取り組んできた。</li> </ul>
	職員研修等	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研修は、職員が互いの保育観をすり合わせたり、新たな気づきを生み出すチャンスになるため、次年度からも続けていきたい。職員が一堂に会して同じ研修を受けることで、対話の機会が増え、連携がとりやすい。</li> <li>・積極的に学びの場を求めている職員が多い。一方で、休みを取って自由に研修に出られるような職員体制が整わない現状が課題である。</li> <li>・得意、不得意を理解して、職員同士が協力していく事は大切であると感じる。</li> </ul>

## V 施設関係者評価委員の評価

- 参観日の回数を増やすことについては、園内でよく検討し、子育て支援に役立つように考えてほしい。また、行事や発表会は、日々の保育が“当日に向けての練習”になる事がないように、園児にも職員にも負担とならない形を模索してほしい。保育の質の向上は、子どもたちにとって有益なものとなるため、この園の方針や方向性を出しながら考えていってくれるとありがたい。行事の動画撮影が可能であり、それを保護者が閲覧できればありがたいと思うが、個人情報保護の観点も考慮しながら折り合いをつけていけるとよい。
- コロナ禍以降、「松尾小学校の運動会では来入見競技がなくなる」等、園小の接続の機会が減っていることが園児への影響が心配される。地域に合った形でよい連携・接続が取れることを期待している。  
※現在年長児と小学校との交流や連携活動は、音楽会リハーサル鑑賞、一日体験入学がある。その他に、総合の学習の時間を利用した交流活動等が年によっては実施されている。
- 地域住民が園生活を支え、保護者の子育ての困り感の手助けになるように、協力・支えられることはないだろうか。例えば、松尾小学校では、校外学習の際に地域の民生委員が引率したことがあった。このように具体的に協力できる事があれば、呼びかけてほしいし、またこちらからも積極的に地域の人に呼びかけたい。また、危機管理に関して、少ない割合であったものの不審者対応への心配や不安のある方がいた。危険な時間帯等に職員が門に立つことは難しいかと思うので、地域住民に声を掛けて小学校の挨拶運動のように、協力してもらうことも案にしてはどうか。
- 自然保育を進める中で園外保育の引率や、松尾地区の歴史文化に触れる機会を園児たちとも共有したい。

## VI 取り組むべき課題（既に実施始めている事を含む）

※アンダーラインは、来年度職員会や研究会にて重点的に検討していく事項

### ■ 行事活動や参観に関して

- ・「10. 保育参観、保育体験などは有意義なものとなっている」（90.2%）「11. 保育参観、親子の日等の回数は適当である」（89.4%）「18. 園の行事は楽しく、子供の成長に役立っている」（97.5%）という回答が多く、保護者の方の満足度がうかがえる。保護者の保育への参加が子育て支援に繋がっていくように、更に検討していきたい。
- ・次年度は、3歳未満児だけでなく3歳以上児にも「親子の日」をつくり、園外保育や親子レクリエーション等の保護者の保育参加を検討している。
- ・一方では、「個々を大切に作る保育はありがたいが、みんなで何か一つのことに向かって力を合わせて活動する事や発表会といった行事が少ない」という具体的な意見もいただいた。保育の理念や目標の保護者への周知にもかかわらず、教育・保育に関して乳幼児にとってふさわしい生活を大切にすることを前提にしつつ、子育ての喜びを園と共に共有していくために何が必要かを再検討していきたい。「どんな子どもに育ってほしいか」「子どもたちはどのように伸びようとしているか」「子どもたちは園生活にどんなことを期待しているのか」「子ども主体の保育とは」等々、子ども目線を考慮しながら、対話を進めていく事が大切だと感じる。保護者の要望と園児の育ちにとって何が必要になるのかをしっかりと見極め、園がどのような考えを持っているのか、さらに発信していきたい。

### ■ 『自然保育』について

- ・次年度は、“信州やまほいく”認定を受ける。保護者は園の方針に同意があり、共感している結果となったことは、大変ありがたい。今年度職員は、研修を通して自然保育の大切さを学んできた。今後は地域資源を活用し環境を整えながら、取り組んでいきたい。

### ■ 危機管理体制について

- ・おおむね評価をいただいていることが分かった。事故対応マニュアル等、各保育室にファイルで綴り、各職員

がいつでも確認できるようにしている。また、担当者は必要な研修に参加している。

- ・保護者アンケート「4. 外部からの不審者の侵入に対して、安全対策を十分行っている」に対し、C・D 合わせると 9.8% と一割弱の保護者が何かしら不安を抱いていることが分かった。評価委員会では、地域の方に声をかけ協力を募ることも良いのではないかと、具体的な案をいただいたため、検討していきたい。
- ・予測不可能な事件や事故が多い昨今、危機管理の面では、セキュリティー機能・対応の見直しなど次年度に向けてさらに強化するため、今年度末までに、門扉 3 か所に、“関係者以外立ち入り禁止”の看板を取り付けることにした。また、職員の不審者対応実地訓練等を警察等外部に協力してもらうことも計画していきたい。
- ・修繕箇所については、早いうちの対応をこころがける。園舎周辺のゴムチップは、3月中旬に修繕予定。その他遊具点検等を定期的に行い、不良がある場合は計画的に修繕している。

## ■ その他

- ・駐車場については、登降園時間に借用している公民館駐車場、園の0・1歳西駐車場共に、混み合う時間帯の中で、利用者のマナーの悪さが何回も指摘された。園からの注意喚起を工夫し、事故のないように検討する。
- ・地域への情報発信については具体的には、どのような場を利用するとよいか、公開保育等により園の内側を知ってもらうことが必要かどうか検討したい。

## ■ 職員の質の向上 =職員の自己評価より=

- ・保護者アンケート「23. 職員は協力し合って保育にあたり、不適切な保育はないと思う」の回答の中、割合は小さいものの、4.1%が不安を感じていることが分かった。この結果を真摯に受け止め、職員一人一人が不適切な保育への認識を正しく持ち、園内外の研修を行っていききたい。また保護者はどのような状況(場面)の中で不適切さを感じるのかということ把握しつつ、保護者支援にあたりたい。そして何よりも子どもの人権を大切にしたい保育を目指したい。
- ・ホームページ活用にはスピード感と積極性が必要であり当園としては課題が大きい。守秘義務を守りながら、ホームページのメリット・デメリット情報発信を工夫して行いたい。
- ・園独自では、「架け橋期のカリキュラム」の研修を進めている。学校との共同研修をしながら、園児にふさわしい具体的なカリキュラムを作成するために、小学校との連携が具体的になるように検討したい。また、令和7年度から始まる飯田学園構想の緑ヶ丘学園との繋がりも大事に考えていきたい。

## VII 財政状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。